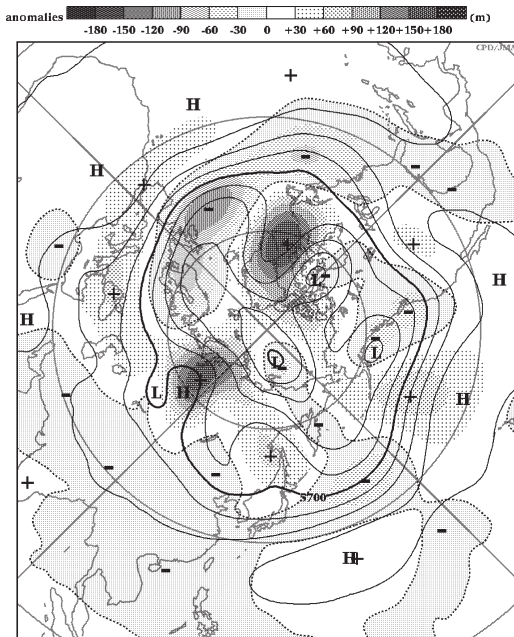


2012年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

グリーンランド、西シベリア、オホーツク海付近ではブロッキング高気圧が形成された。ユーラシア大陸では偏西風の分流傾向が続き、寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。ユーラシア大陸から日付変更線付近にかけての亜熱帯ジェット気流は平年と比べて南偏した。北半球中・高緯度対流圏の気温は顕著な高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、南シナ海からフィリピンの東海上にかけてと西部太平洋赤道域で平年より活発、太平洋中部とインド洋東部で不活発だった。明瞭な赤道季節内振動(MJO)に伴う対流活発な位相は海洋大陸付近(上旬)からインド洋西部(下旬)にかけて東進した。対流圏下層の赤道域は太平洋西部で東風偏差、中部から東部で西風偏差となった。対流圏上層ではチベット高気圧は東側で平年より強かった。南方振動指数は -0.7 だった。



2012年6月の北半球月平均500hPa高度および年偏差
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981~2010年のデータから作成。

世界の天候

2012年6月の世界の月平均気温偏差は $+0.21^{\circ}\text{C}$ で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.66^{\circ}\text{C}/100$ 年である。

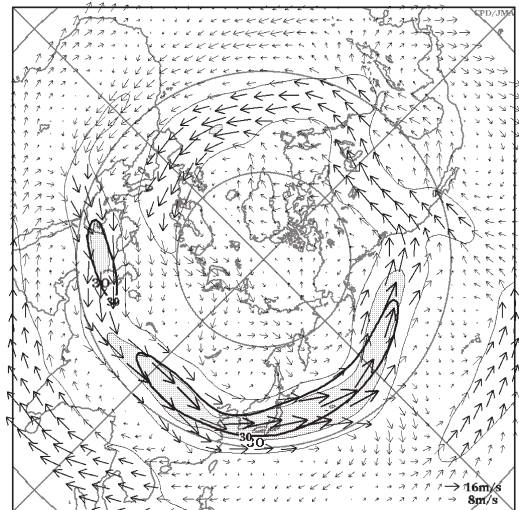
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- ヨーロッパ北西部では、異常低温・異常多雨となった。
- 暖かい高気圧に覆われたことや暖気が入ったことにより、アラビア半島西部から地中海周辺の広い範囲で異常高温、ヨーロッパ南部では異常少雨となった。
- グリーンランド南西部から米国の広い範囲で異常高温、米国北部で異常少雨となった。

(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

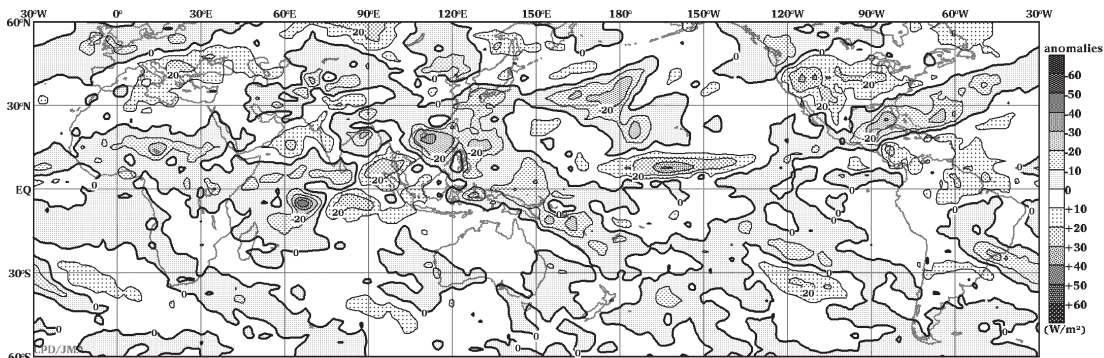
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

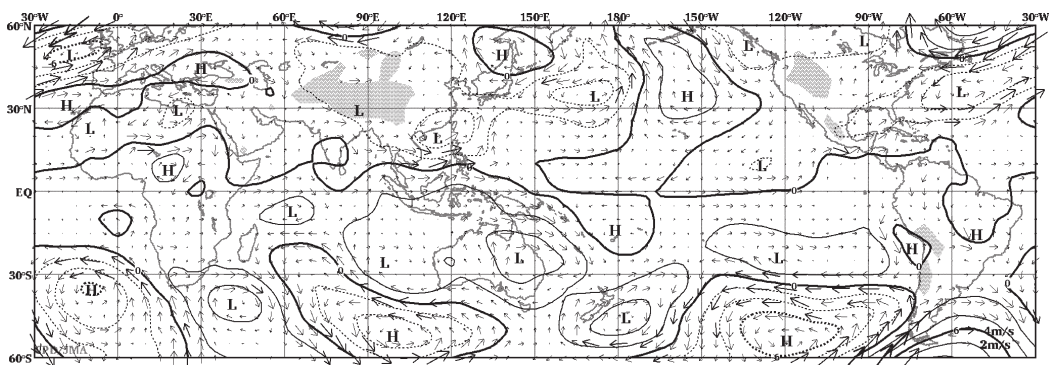


2012年6月の北半球月平均200hPa風速および風ベクトル

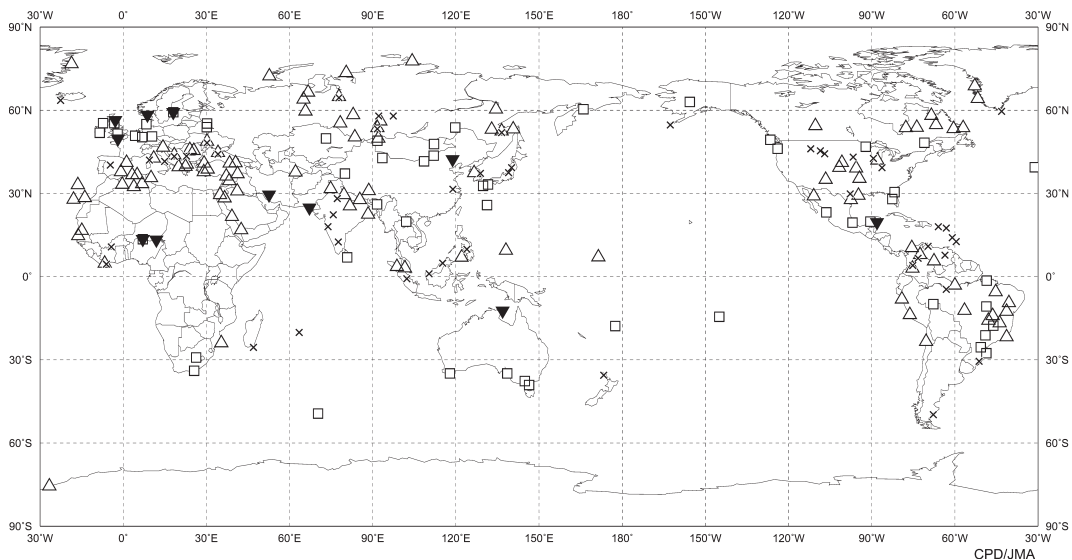
等値線間隔は15m/s。陰影部は30m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30m/s以上の領域を示す。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年6月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年6月の月平均850hPa流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。